

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-97	中学校	社会科	地図	1～3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地図-724	中学校社会科地図		

1 編修の趣旨及び留意点

▶ “新しい社会を生み出す創造力”をめざして

現在の社会はグローバル化・情報化・少子高齢化など、様々な変化が急速に進んでおり、中学生が身につけるべき知識や教養も変化しています。私たちは、中学生が優れた日本の伝統をしっかりと継承できるように配慮しつつ、社会の変化をしっかりと踏まえた学習が可能になるよう意を注ぎました。

その上で私たちは今回の教科書の編修にあたって、これからの社会を生きていく中学生に対し、“新しい社会を生み出す創造力”を身につけ、「公共の精神」を尊びながら主体的に社会の形成に参画する人間になってほしいと考えました。将来において、社会に対する安心感をいだきながら平和な生活を持続していくためには、現在の社会の成り立ちやしくみを知るだけでなく、新しい社会に合わせたしくみやモデルを創り上げていく能力が必要です。その“創造力”を育成することができるよう、私たちは以下のような点に留意して教科書を編修いたしました。

共通編修方針

- ① 社会のしくみや現状など、社会科の基礎・基本がしっかりと身につく教科書に
- ② 社会を形成する人々の様々な工夫や努力が見える教科書に
- ③ 現代社会の諸課題と、その解決に向けての取り組みが見える教科書に
- ④ 人々が作り上げてきた世界や日本の各地にある様々な文化が認識できる教科書に
- ⑤ 様々な考えをもつ人々と共生していくことの大切さを伝える教科書に
- ⑥ 新しい社会の形成に参画していくことの大切さを伝える教科書に

2 編修の基本方針（教育基本法第2条への対応）

第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

➡ 「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う」ことについて、本書では、我が国および世界の諸地域の空間的認識－県・国の位置関係や形、大きさなど－について大観的に捉えながら深め、かつ自然・人文的要素－地形や気候、民族、宗教、産業など－について捉え、日本の国土理解、世界の諸地域への理解を深めていくことが重要と捉えました。

- ① 世界・日本の諸地域に関する幅広い知識の習得に資するよう、美しい地図と、わかりやすい資料を豊富に掲載しました。
 - ・日本の拡大図（地域別地図）では、縮尺を統一し、各都道府県のひろがり、面積の把握や、たがいの比較が容易になるように配慮しました。
 - ・世界・日本の諸地域ともに、自然環境、民族や宗教、農業や工業などの産業、人々のくらしのようすなどがわかる資料図を豊富に用意しました。また、他の資料図との縮尺をなるべく統一することで、比較や重ね合わせをしやすくし、より理解を深められるように配慮しています。
- ② “社会科の辞書”ともいえる地図帳に興味・関心をもちながら活用し、人々のくらし、産業についてなど、学習上、基礎・基本となる知識や、幅広い教養を身につけていけるよう配慮しました。

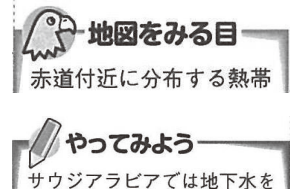
- ・知識の習得に資するように、地域を大観するための地図を豊富に用意しました。世界・日本の諸地域を大観する図「ながめてみよう」を多数設置し、世界・日本の自然環境や文化、人々の生活のようすなど、基礎的・基本的な内容を興味・関心をもって捉えられるようにしました。
- ・地域のすがたをより具体的に捉えられるように、鳥瞰図や衛星画像を多用しています。

例：p.25 ①「中国とそのまわり」中国の生活、産業、著名な建築物などのイラストを配した見開きの大鳥瞰図で、地域の特徴がより視覚的に捉えられるようにしました。

p.125 ②「東京湾臨海部の開発」2020年東京オリンピックの会場予定地や、開発の様子が臨場感をもって捉えられるようにしました。

③地図帳を活用していくための、基礎的・基本的な知識・技能が習得できるように配慮しました。

- ・巻頭部分に「この地図帳の使い方」(p.5～7)を設け、地図帳の成り立ちや見方、資料図の活用方法、さくいんの使い方など、基礎的・基本的な地図の使い方がわかるようにしました。
- ・学習活動を通して上記のような地図活用の技能(スキル)が身につくよう、随所に学習課題「地図をみる目」、「やってみよう」を設けました。



第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

⇒「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培う」ことについて、本書では、どのような生徒でも等しく地図帳を使いこなしながら、その学びを通して、学力や創造力などを成長させていけることが重要と捉えました。

①地図帳の活用を通してその能力を伸ばしていけるように配慮しました。

- ・地図を読み取るための技能を習得できるよう、配慮しました。(第1号③を参照)
- ・資料図の読み取りがしやすくなるように、一つの図の記載要素を極力減らし、複数の図から総合的に読み取れるように配慮しました。

②誰にとっても、見やすい、わかりやすい地図帳を目指しました。

- ・色覚に特性をもつ生徒でも、色を判別して地図や資料が読めるように、カラーバリアフリーに取り組む団体の協力を得て、色彩表現を工夫しました。

例：赤文字で記された地図中の都道府県名・国名については、黒色で縁取りしています。また、一部の国名には、さらに白色の縁取りを加えています。

⇒「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う」ことについて、本書では、この世界にくらす人々の生活のようすや、仕事に対する工夫、農林水産業や工業など社会を支える産業への理解を深め、生徒自身の勤労に対するイメージや意欲を高めることが重要と捉えました。

①生活との関わりが地図帳から捉えられるよう、地域のくらしや産業が見える工夫をしました。

- ・日本の地図では“土地利用表現”と“等高段彩表現”を併用するとともに、多彩な絵記号を配することで、地域のようすや地域における人々のくらし(どのあたりに田畑が広がっているか、市街地はどこかなどがわかる)や、地域で産する農産物・工業製品などが端的にわかるようにしました。
- ・農業や工業に関する資料・鳥瞰図を多数設け、日本各地域の農林水産業や工業のようす、そこでの人々の努力や工夫などが理解できるようにしています。

例：p.86 ⑨「シラス台地の開発」かつては農業に向かなかったシラス台地が、人々の努力によって農業がさかんになったようすが理解できます。

p.128 ⑧「気仙沼付近の漁業のようす」漁師が山に植林することによって、養分豊富となった湾での養殖のようすが捉えられるようにしました。



p.118

第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

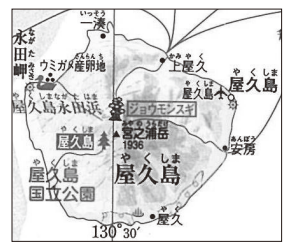
➡ 「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」ことについて、本書では、この世界・日本の現状や諸課題に目を向け、生徒自身が地球の一員として考えていくことが重要と捉えました。

- ①生徒自身が、現在の世界のような諸課題について学ぶ中で、他の生徒と協力したり、社会の形成に参画するという意識を育むことができるよう配慮しました。
- ・地図帳中に多数設けた学習課題「やってみよう」において、生徒自らが世界の諸課題について考え、よりよいあり方について検討したり、他の生徒と話しあったり、協同してできるような課題や作業を提示しました。
 - ・環境問題に関しては、単に課題を取り上げるだけでなく、それへの取り組みや対策についても提示し、生徒自身の意識や行動で環境を保全していけることが理解できるようにしています。

第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

➡ 「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う」ことについて、本書では、生命のかけがえのなさと、現在の地球の自然環境や環境問題を理解し、生命や自然環境の保全に寄与する態度を養うことが重要と捉えました。

- ①災害から生命を守るという観点を重視し、地図帳で防災について学べるように配慮しました。
- ・資料図「日本の災害と防災」(p.143～144)を新設し、日本に起こりやすい災害の状況と、それに対する対策についてわかりやすく示しました。また、もしもの災害から身を守ることを地形図とハザードマップから学べるようにしています。
 - ・各地域の資料図において“防災”をテーマとする資料を充実させました。
例：p.123 ③「都市型洪水へのそなえ」最近増加傾向にある集中豪雨に対して、人口が集中する都市部でどのような対策がとられているかを理解することができるようにしています。
- ②かけがえのない自然環境の保全や、環境問題に対する関心を高められるよう、環境に関する様々な資料を掲載しました。
- ・環境問題に関する特設ページ(p.13～14)を設け、環境問題の現状や、原因、対策(取り組み)について取り上げました。また、世界・日本の資料図にも環境問題や、自然の改変、保全に関する資料を充実させました。
例：p.101 ③「琵琶湖の透明度の変化」琵琶湖の水質が、近隣住民の努力によって改善されたことが、2枚の地図の比較から理解できます。
 - ・世界・日本の地図中に「おもな世界自然遺産」、「おもなラムサール条約登録湿地」、「貴重な動物・植物」の絵記号などを記載し、環境への関心を高められるようにしました。



p.77 ⑥

第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

➡ 「伝統と文化を尊重する」ことについて、本書では、日本で育まれてきた伝統や文化および、それらを将来にわたって継承していくことの大切さを理解することが重要と捉えました。

- ①先人によって育み、継承されてきた優れた伝統や文化を尊重し、次代へ引き継いでいくことの大切さが理解できるよう、記載内容や資料を工夫しました。
- ・日本の文化的象徴である世界文化遺産“富士山”の鳥瞰衛星画像と関連資料を設け(p.110)、その世界遺産の構成資産や、日本の文化への影響などが理解できるようにしました。
 - ・平成の大合併でなくなった旧市町村名は、古くから残る祭りや、伝統的工芸品や特産品名に残るなど、地域の文化にとっても重要であると考え、全て字名で記載しました。

- ・おもな伝統的工芸品や地場産業の絵記号や、世界文化遺産の記載など、伝統・文化に関する内容を地図中に盛り込みました。
- ・日本の伝統・文化に関する特設ページ(p.155)を設け、伝統的な町なみが全国各地で保全されていることや、古くからの食文化が今に続いていることがわかるようにしました。

⇒「我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」ことについて、本書では、郷土を愛したり、他国やそこにくらす人々を尊重したりするためには、正しく幅広い国土理解と、世界の諸地域への理解が重要と捉えました。

①正しい国土理解、世界の諸地域への理解に資する地図帳となるよう、世界・日本とも基礎的・基本的な内容をかかさずにおさえ、わかりやすく表現しました。

- ・日本の領土領域について正しく学べるように配慮しました。p.175～176「日本の位置とまわりの国々」では、東西南北端を含めた日本の領土や、日本の広大な排他的経済水域を捉えられる図を用意するとともに、領土・領海・接続水域などの概念が端的にとらえられる模式図を掲載しました。また、400万分の1で示したp.75～80「日本列島」では、北方領土・竹島・尖閣諸島を写真付きで取り上げるとともに、日本固有の領土であることを明記しています。
- ・その国の成立背景や信条などが見えてくる“国旗”を、全196か国分、掲載しました。

※基礎的・基本的な内容の習得に関しては、第1号の部分とも重複しますので、上記も参照ください。



p.45

3 対照表

本書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
◎全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・日本・世界の自然、産業、歴史など、様々な情報を地図上に幅広く取り上げ、空間認識をともなった幅広い知識や教養が身につくように配慮した。(第1号) ・色覚特性のある生徒にも地図や資料が読み取りやすいよう、地図ページ中の国名・都道府県名の赤文字には、黒色で縁取りをした。また国や県毎に塗り分ける色や、グラフ等の色にも配慮し、混同しにくい配色とした。(第2号) ・「地図をみる目」、「やってみよう」などの学習課題を随所に設け、生徒自身の努力によって地図を読み取る力を身につけられるように配慮した。(第2号) 	<p>本書全体</p> <p>本書全体</p> <p>本書全体</p>
①世界の国々 (p.1～3)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の時差が端的にわかるような工夫を施したり、アジア中心だけでなく、ヨーロッパ中心の地図を配したりすることで、日本人とは異なる世界の見方ができることを感じられるようにした。(第5号) 	p.1～3
②地図帳の使い方・地形図の読み方 (p.4～8)	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を活用するための方法や、地形図を読み取るための具体的な手順を示すことで、地図帳活用の技能や、地形図の読図力を身につけていけるように配慮した。(第1号) 	p.4～8
③世界の基礎資料図 (p.9～18)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題に関わる特設ページを設け、世界で起きている環境問題の現状、原因、対策を取り上げた。(第4号) ・世界の宗教や料理など、世界の文化を大観できる資料を掲載した。(第5号) 	<p>p.13～14</p> <p>p.15～18</p>
④世界の基本図・拡大図 (p.19～74)	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界自然遺産」、「ラムサール条約登録湿地」を記載し、環境への関心が高められるようにした。(第4号) ・同緯度・同縮尺の日本図を随所に用意し、日本との位置関係や大きさを比べながら世界を学べるよう配慮した。(第5号) ・すべての国の国旗を掲載し、国旗への関心が高められるようにした。(第5号) 	<p>p.19～74</p> <p>p.19～74</p> <p>p.19～74</p>
⑤世界の資料図 (p.19～74)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や産業、文化などの基本的な特徴が大観できる図「ながめてみよう」を州毎に掲載し、世界について幅広い教養が身につくようにした。(第1号) ・同縮尺の図を複数用意し、各図の要素を比較したり、重ね合わせたりしながら、学習を深めていけるように配慮した。(第1号) ・日本と関わりの深い中国・ヨーロッパ・アメリカ合衆国では大きな鳥瞰図を設け、グローバル化の時代を生き抜くための豊かな教養を身につけられるような資料を掲載した。(第1号) ・世界の各地の環境に関する資料を随所に取り上げ、環境問題への関心が高められるようにした。(第4号) ・世界各地域と日本とのつながりを示した資料「日本との結びつき」を随所に設け、国際社会に関心をもてるよう配慮した。(第5号) 	<p>p.21 ①他5か所</p> <p>p.19～74</p> <p>p.25 ① p.51 ① p.63 ①</p> <p>p.28 ⑩ p.35 ③ p.40 ⑦ p.68 ⑨ p.28 ⑨他10か所</p>

本書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
⑥日本の基本図・拡大図・都市圏図・都市図 (p.75～138)	・「土地利用表現」と「等高段彩表現」を併用し、さらに産物等の絵記号を記載することで、日本各地の風土や産業、人々の生活をうかがい知ることができるようにした。(第2号)	p.75～138
	・色覚特性のある生徒への配慮から、土地利用表現においては、格子模様や地紋などを入れて似た色の識別がしやすくなるようにした。(第2号)	p.75～138
	・隣の生徒と地図帳を持ち寄り、それらを重ね合わせることで、日本列島全体を見わたす内容を盛り込んだ。(第3号)	p.75～80
	・「世界自然遺産」、「ラムサール条約登録湿地」、「貴重な動物・植物」などを記載し、環境への関心が高められるようにした。(第4号)	p.75～138
	・「世界文化遺産」や、各地に根付いた伝統的工芸品を記載し、日本の文化への関心が高められるようにした。(第5号)	p.75～138
⑦日本の資料図 (p.75～138)	・自然や産業、文化などの基本的な特徴が大観できる鳥瞰図を地方毎に掲載し、我が国の国土について幅広い教養が身につくようにした。(第1号)	p.85 ①他6か所
	・2020年東京オリンピック開催に関連した開発の様子など、地域の新しい資料を盛り込むことで、地域の変化の様子を捉えられるようにした。(第1号)	p.75～138
	・農業関係、工業関係の資料図を多数掲載し、実際の農業・工業の様子やそこの工夫がわかるように配慮した。(第2号)	p.75～138
	・日本各地の環境や防災に関する資料を随所に取り上げ、環境問題・環境保全への取り組みや、防災への関心が高められるようにした。(第4号)	p.112 ⑤他8か所
	・世界文化遺産や歴史地名が多くある京都と奈良、五街道の状況がわかる本州中央部の鳥瞰図を特別に設けた。(第5号)	p.95 p.103
⑧世界と日本の基礎資料図 (p.139～155)	・日本の災害と防災に関するページを特設した。災害の状況を知るだけでなく、自身の命を守るための防災への意識が高められるようにした。(第4号)	p.143
	・日本の伝統・文化に関する資料図を設けた。(第5号)	p.155
⑨統計資料・さくいん (p.156～173)	・世界・日本とも統計資料を充実させることで、数字に裏付けられた世界・日本のすがた、位置づけを理解できるようにした。(第1号)	p.156～164
⑩都道府県・日本の位置とまわりの国々 (p.174～176)	・日本の領土や排他的経済水域を見開きの地図で大きく掲載した。東西南北端の島については写真と地図を併用してわかりやすく示した。(第5号)	p.175 ①

4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

○地図帳の文字には、「とめ」や「はね」などが正しい書体を使用。地名にはすべて「ふりがな」を記載

- ・地図中の文字に、国語で学習する「とめ」、「はね」、「はらい」などが正しい字形となる書体を用い、国語で学習する字体と食い違いがないように配慮しました。
- ・地図中の地名には、すべてふりがなを付し、正しく読めるように配慮しました



○歴史的分野、公民的分野でも幅広く活用できるよう、記載内容を工夫

- ・重要な歴史地名を地図中に掲載したほか、江戸時代の東京や大阪の地図を設けました。また、新たに江戸時代の五街道と宿場町を掲載した地図を設けました。
- ・EUやAPECなど国際機関への参加国を地図に示したほか、環境問題や宗教に関する資料図や、中央省庁が集積する霞が関の拡大図などを設けました。

○長期間の使用に耐えうる造本

- ・3年間の使用に耐えられるよう、ノド部分を糸かがりした上で糊付けし、さらに寒冷紗でくるみ、丈夫に製本しました。また3ページ大の折り目の部分にはニス引き加工を施し、簡単に切れないようにしました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-97	中学校	社会科	地図	1～3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地図-724	中学校社会科地図		

1 編修上特に意を用いた点や特色

■生徒が興味・関心をもって、日本・世界の諸地域への理解を深められる地図帳

はじめて地理を学ぶ中学生が、興味・関心をもちながら、日本の国土理解、世界の諸地域への理解を深められるよう、以下のような特色をそなえた地図帳を編修しました。

- 興味・関心をもって活用できる地図帳
- 日本の国土理解に資する地図帳
- 世界の諸地域の理解に資する地図帳
- 見方や使い方が身につく地図帳
- 活用しやすいよう配慮・工夫した地図帳
- 誰も見やすい、わかりやすい地図帳
- 歴史的・公民的分野でも幅広く使える地図帳
- 防災、文化、自然環境に関する内容を充実させた地図帳

📖 興味・関心をもてるように — 大観学習を重視 📖

●興味・関心をもって活用できる地図帳

世界・日本ともに充実した本格的な地図帳をはじめて手にする中学生のことを考慮し、世界・日本の諸地域に興味・関心をもてるよう、大観させることを重視して、鳥瞰図や大観図、衛星画像を多用しました。

- ①地域の特徴や文化、生活、産業などが視覚的に大観できる見開きの「大鳥瞰図」(p.25ほか2か所)
 - ・学習上重点がおかれる中国、ヨーロッパ、北アメリカには、生活、産業、著名な建築物などのイラストを配した見開きの大鳥瞰図を設け、地域の特徴をより視覚的に捉えられるようにしました。
- ②世界・日本の諸地域の特徴が大づかみに捉えられる大観図「ながめてみよう」(p.21ほか12か所)
 - ・世界・日本とも、各地域の自然環境や文化、人々の生活や産業の様子などを興味・関心をもって捉えられるよう、資料図ページの導入部にイラストや絵記号などを用いた地域の大観図を設けました。大観図は、はじめて地誌を学ぶ中学生が各地域の特色をつかむ上でも有効に活用することができます。
- ③世界・日本のより具体的なすがたを大観して捉えられる数々の「鳥瞰図」や「衛星画像」(p.40ほか多数)
 - ・地域のすがたをより具体的に捉えられるように、世界・日本ともに鳥瞰図を多用。例えば p.125 では、2020年東京オリンピックの開催によって今後ますます再開発が進むことが予想される東京湾岸の鳥瞰図を設け、オリンピック会場予定地や、開発の様子を見てとれるようにしています。また、p.110では、世界文化遺産に登録された富士山の迫力ある鳥瞰衛星画像を設け、富士五湖、富士山から三保松原、太平洋までの広がりや、世界文化遺産の構成資産の分布を捉えられるようにしました。

●日本の国土理解に資する
地図帳

日本各地域の多様なすがたを地図帳から捉えられるよう、地図および資料を充実させました。

①日本の領土の広がりを視覚的に捉えられるよう三ページ大の見開きで表現した「日本の基本図」

- 日本の北端である北方領土・択捉島から、日本の西端である与那国島までを二葉の三ページ大の地図でカバーし、途切れることなく日本列島が見わたせるようにしています。
- 南西諸島から東京までを収めた一葉では、福岡から東京、那覇、上海がほぼ等距離であることがわかり、南西諸島を含む九州地方の広がりや、近隣諸国との距離感も実感できる図取りとなっています。

②地域の実態がわかる 100 万分の 1 の縮尺と“土地利用+等高段彩”で表現した「日本の拡大図」

- 日本の拡大図（地方別地図）は、九州、中国、四国、近畿、中部、関東、東北、北海道の八地方に区分し、各地方の様子が読み取れるよう、100 万分の 1 の縮尺で統一しています。また大都市の周辺部については、50 万分の 1 で統一した都市圏図を設けました。
- 国土理解につながるよう、地域のくらしや産業が見える“土地利用表現”と、地形が見える“等高段彩表現”をあわせた地図表現を採用しています。これにより市街地や田畑などの広がりを端的に捉えられ、人々のくらしを見ることができます。
- 地域の産業や、特産物が読み取れる「絵記号」を多数掲載。収量の顕著な農産物や、大きな工場、伝統的工艺品など、地域の産業の様子をより具体的に捉えることができます。
- 平成の大合併でなくなった旧市町村名は、合併後も祭の名前や、特産品名に残るなど、歴史があり、地域にとって重要なものが多いことを考慮し、全て字名で記載しました。



p.118

③国土理解の一環でもある日本の領土・領域について正しく学べるよう配慮

- p.175-176「日本の位置とまわりの国々」では、東西南北端を含めた日本の領土や、日本の広大な排他的経済水域を捉えられる図を用意するとともに、領土・領海・接続水域などの概念が端的に捉えられる模式図を掲載しました。また、このページに出てくる国名については、正式国名で記載しています。（例：日本国）
- 400 万分の 1 で示した p.75-80「日本列島」では、北方領土・竹島・尖閣諸島についても、写真付きで取り上げて見つけやすくするとともに、日本固有の領土であることを明記しました。

④基礎的・基本的な資料をしっかりとおさえるとともに、地域の新しい動向を捉え充実させた「日本の資料図」

- 各地域とも、大観するための「ながめてみよう」、基本となる気候や産業に関する資料、地域の様子が具体的にわかる鳥瞰図などを豊富に掲載しています。
- 各地の新しい動向を捉えるため資料の内容を更新するとともに、新たな資料を設けました。

●世界の諸地域の理解に資する
地図帳

グローバル化が進み、変化する世界の様子を地図帳から捉えられるよう、地図および資料を充実させました。

①美しい「等高段彩表現」の地図で全世界をカバー

- 世界地図は、濁りがなくきれいな“黄緑色”と、明るい“茶色”で、高さごとに色分けした等高段彩表現を用い、土地の起伏感が捉えられるようにしました。
- 世界の地誌学習が、州ごとの学習になった点を考慮し、世界全州（アジア州、アフリカ州、ヨーロッパ州、南北アメリカ州、オセアニア州）の基本図を設けています。アジア州およびアフリカ州については、基本図の図取りと縮尺を見直し、より大きく 2 つの州を捉えられるようにしています。

- ・学習上、詳しく取り上げられることが多い、中国や、西ヨーロッパ、アメリカ合衆国などについては、基本図より詳細な拡大図を設け、地誌学習に資するようにしています。

②基礎的・基本的な資料をしっかりとおさえるとともに、地域の新しい動向を捉え充実させた「世界の資料図」

- ・大観するための「ながめてみよう」、気候、人口密度、言語、産業、日本との結びつきに関する資料などを州ごとに豊富に掲載。各州とも基本的な資料を欠かさず取り上げました。
- ・多様なアジアの風土、民族、宗教、産業などの様子、その特徴を捉えることができるよう、アジア各地域の基礎的な資料図をさらに充実させました。
- ・各地の新しい動向を捉えた資料を多数設けました。

③世界 196 か国全ての「国旗」を掲載

- ・その国の成立背景や、信条などが見えてくる“国旗”を、全て掲載しています。例えば、かつて大英帝国の領土であった国の国旗には、ユニオンジャックが描かれていることが多いことを理解できます。



●見方や使い方が身につく
地図帳

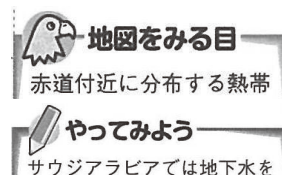
地図帳をより活用できるものにするために、中学生が地図帳を使いこなせるようになるための工夫をほどこしました。

①地図帳と地形図の見方、使い方がわかる「この地図帳の使い方」「地形図」(p.5-8)

- ・地図帳の構成や、方位や地図記号、縮尺、さくいんの使い方など、地図帳の基本的な見方・使い方をわかりやすく解説したページを巻頭に設けました。
- ・実際の地形図を取り上げ、作業を通して地形図の見方が身につけられるコーナーを設けました。

②随所に設けた「地図をみる目」、「やってみよう」

- ・地図活用のスキルが身につくよう、また、地図への着眼点が理解できるようになるよう、地図を見る上での着眼点を示した「地図をみる目」、地図から読み取る学習活動や言語活動を促す「やってみよう」を随所に設けました。



活用しやすくするために

●活用しやすいよう配慮・工夫した地図帳

中学生が使う地図帳であることを考慮し、より使いやすく、わかりやすくする配慮、工夫を随所にほどこしました。

①比較が簡単にできるよう、“縮尺”を統一した地図・資料図を多数用意

- ・資料図は、他図との重ね合わせや、比較がしやすいよう、基本となる図を中心に縮尺を可能な限り統一しています。例えば、p.27の中国の資料図では9図で縮尺を統一。工業開発が盛んな地域と、経済格差や、大気汚染の関連などを容易に読み取ることができます。
- ・世界地図には、随所に同縮尺・同緯度の日本地図を記載し、世界の国々と日本との大きさくらべや、緯度による位置関係の比較ができるようにしています。
- ・日本の拡大図（地方別地図）は、100万分の1の縮尺で統一しています。

②わかりやすく工夫した巻末の「統計資料」

- ・数値的に地域の特徴や差異を捉えるための統計資料は、巻末にまとめて掲載し、地方別、項目別に色分けして見やすく、かつわかりやすくしています。また、統計をより有効に活用できるよう、上位国・上位県の数値を赤字で示して、着目点をわかりやすくしたり、比較しやすくしたりしています。

p.168

③使いやすく、より充実した「さくいん」

- ・地名を検索するためのさくいんは、日本はすべての市町村名を取り上げるとともに、「町」（ちょう、まち）、「村」（むら、そん）の読みまでわかるように記

日本の部	
【あ】	
●あおいし 相生市[兵庫]	94 A 5
●あいかわ 相川(一佐瀬)	114 B 2 S
○あいかわまち 壺川町[神奈川]	116 C 6 S
●あいさいし 愛西市[愛知]	106 B 6
●あいしょうちょう 愛荘町[滋賀]	93 E 4
○あいずみちょう 藍住町[徳島]	90 F 2 S
□あいちけん 愛知県	106 C-D 6 S

載しました。世界はすべての国名・首都名と、おもな都市名を掲載。その他、学習上必要な自然地名や、世界遺産名、歴史地名なども充実させました。

④その地図がどこに位置するかが端的にわかる「位置図」を掲載

- どの地域の地図でも、そこが世界・日本の中でどのあたりに位置するかが一目でわかるよう、位置図をほぼすべての地図に掲載しました。

⑤地図帳の文字には、“とめ”や“はね”などが正しい書体を使用。地名にはすべて「ふりがな」を記載

- 地図中の文字に、国語で学習する“とめ”“はね”“はらい”などが正しい字形となる書体を用いています。
- 地図中の地名には、すべてふりがなを付し、正しく読めるように配慮しています。



●誰もが見やすい、わかりやすい地図帳

色覚に特性をもつ生徒をはじめ、すべての生徒が学びやすくなるよう、配慮しました。

①カラーバリアフリーへの配慮

- 色覚に特性をもつ生徒でも、色を判別して地図が読めるように、カラーバリアフリーに取り組む団体の協力を得て、色彩表現を工夫しました。
- 赤文字で記された都道府県名・国名については、黒色で縁取りして読みやすくしています。また、小さかったり、下地の色と区別がつきにくい一部の国名に関しては、さらに白で縁取りしています。

②書目全体を通して地図表現を統一

- 書目全体を通して共通の凡例・表現となるように配慮しました。

活用・探究にむけて

●歴史的・公民的分野でも幅広く使える地図帳

社会科地図帳として、歴史的・公民的分野などでも活用できるよう、記載内容を工夫したり、関連する資料を掲載しました。

①歴史的・公民的分野での活用を考えて

- 「重要な歴史地名・事項」、「おもな歴史地名・事項」を地図中に掲載したほか、江戸時代の東京（p.120 ②）や大阪（p.99 ②）の地図を設けました。また、p.103の鳥瞰図「本州中央部」では、江戸時代の五街道とその全宿場を掲載しています。

②公民的分野での活用を考えて

- EUやAPECなど国際機関への参加国を地図に示したほか、環境問題や宗教に関する資料図や、中央省庁が集積する霞が関の拡大図（p.120 ③）などを設けています。

●防災、文化、自然環境に関する内容を充実させた地図帳

今後ますます重要なテーマになると考えられる、防災、文化、自然環境に関する内容を充実させました。

①日本に起こる自然災害と防災に関する資料図と、各地域の資料図に防災関連の資料を設置

- 資料図「日本の災害と防災」（p.143-144）を新設し、日本に起こりやすい災害の状況と、それに対する対策が理解できるようにしています。また、災害から身を守るためのハザードマップと地形図の比較から、防災における地図の有用性を理解できるようにしています。
- 各地域の資料図においても“防災”をテーマとする資料を充実させました。例えば、p.123 ③「都市型洪水へのそなえ」では、最近増加傾向にある集中豪雨への対策について理解することができます。

②日本の文化や、貴重な自然環境を重視

- 日本が誇る世界遺産に関しては、地図中に緑ネガ反転文字で目立たせ、すべて掲載しました。
- p.139-140 ②③では、後世に残したい日本の貴重な自然環境の例として、国立公園、世界自然遺産、世界ジオパークを取り上げ、日本全国に広く分布している様子が捉えられるようにしました。

2 対照表

本書の構成・内容	構成・内容の特色	学習指導要領の内容
◎全体を通して	<p>【地理的分野】…充実した世界の地図、資料図から、世界に関する地理的認識を深める。また、さまざまな地域の事象を示した日本の地図、資料図から、国土認識を深め、地域的特色を動的に捉える。要所に配した問いかけから、地図の読み取りなどの地理的技術を習得する。</p> <p>【歴史的分野】…現代の地図のなかに示した主要な街道や歴史的地名から、我が国の歴史の大きな流れを、現在と重ねあわせて捉える。</p> <p>【公民的分野】…世界の地図や資料図から、世界全体や諸地域の課題を把握し、国際協調の取り組みの重要性を認識する。</p>	
①世界の国々 (p.1-3)	<p>【地理的分野】…世界の大陸や海の分布、国々の位置関係、生活環境、諸地域の様子を大きく捉える。我が国の国土の位置や世界との時差などを把握する。</p> <p>【公民的分野】…世界の国家間の主権の尊重と協力、国際機構の役割を理解する。</p>	(1)アイウ(2)ア (4)ア
②地図帳の使い方・地形図の読み方 (p.4-8)	<p>【地理的分野】…地図帳の使い方、地形図の読み方を身につける。世界各地の人々の生活と環境、諸地域等特色などを調査し、理解する。世界と比べた日本の地域的特色を大観し、諸地域の様子をさまざまな観点から考察する。</p>	(1)イウエ(2)イウ
③世界の基礎資料図 (p.9-18)	<p>【地理的分野】…世界のさまざまな地域と人々の生活から、諸地域の多様性や地域的特色を捉える。世界と比べた日本の地域的特色の学習にも活用する。</p> <p>【公民的分野】…世界の文化や宗教の多様性を知り、国際協調について考える。</p>	(1)アイウエ(2)イ (4)ア
④世界の基本図・拡大図 (p.19-74)	<p>【地理的分野】…世界の多様な地域と生活を、おもに州ごとに大観しながら捉える。</p> <p>【歴史的分野】…各時代の世界の歴史の大きな流れを捉え、それらが日本の歴史にどのような影響を与えたか、世界との関連を通して日本の歴史を捉える。</p> <p>【公民的分野】…紛争地域やさまざまな問題を抱える世界各国の状況から、国家間の相互理解と協力、国際機構の重要性について、捉える。</p>	(1)アイウエ (2)ア(3)ア(4)ア (5)アカ (4)ア
⑤世界の資料図 (p.19-74)	<p>【地理的分野】…世界の諸地域の多様性や地域的特色を、おもに統計や資料などを用いて州ごとに大観する。世界と比べてみた日本の特色の理解にも活用する。</p> <p>【歴史的分野】…古代からの大陸と日本との関わり、文化の影響などを捉える。</p>	(1)アイウエ(2)イ (2)アイウ(3)ア
⑥日本の基本図・拡大図・都市圏図・都市図 (p.75-138)	<p>【地理的分野】…日本全体の特色の大観と諸地域の地域的特色を、おもに地方別に捉え、国土の認識を深める学習につなげる。</p> <p>【歴史的分野】…産業の発達に伴い五街道などで各地が結ばれ、地域の特産品が全国に流通する様子を捉える。大阪や江戸の都市図から、経済、文化の中心となった様子を読み取る。</p>	(2)アイウエ (4)ウ
⑦日本の資料図 (p.75-138)	<p>【地理的分野】…日本の諸地域の地域的特色を、鳥瞰図や統計、資料などを用いて州ごとに大観し事例を学習する。身近な地域の調査にも、資料の観点を役立てる。</p> <p>【歴史的分野】…地域的特色を示す資料図から身近な地域の歴史への関心を高める。</p>	(2)アイウエ (1)イ(4)ウ
⑧世界と日本の基礎資料図 (p.139-155)	<p>【地理的分野】…世界の諸地域の特色を世界全体の資料図から大観し、また日本と比べることで、日本の地域的特色を捉える。</p> <p>【公民的分野】…日本の社会の特色を捉え、世界全体の課題の解決のために国際協調が必要であることを学ぶ。</p>	(1)ウエ(2)イウ (1)ア(4)ア
⑨統計資料・さくいん (p.156-173)	<p>【地理的分野】…世界のさまざまな地域、日本の諸地域について、統計などの資料からその特徴を捉える。</p>	(1)アイウエ(2)アイウエ
⑩都道府県・日本の位置とまわりの国々 (p.174-176)	<p>【地理的分野】…我が国の国土の位置や領域、地域区分について、正しく理解する。</p> <p>【歴史的分野】…昔の国名の地図から、廃藩置県以前の日本の地域区分を捉える。</p>	(2)アイ (5)イ